

◀ 学生からの質問に答える齋藤監督(右)と福富教授



ネットワーク情報学部・メディアプロデュースプログラム拡大講義「映画 Teach Inn」映画上映と監督によるトークショーが5月から6月に全5回、生田キャンパスで開催された。福富忠和教授が、鈴木裕信非常勤講師とともに企画したもので、福富教授は「映画解釈の授業や監督をゲストに招いての講義は今までも行ってきたが、一緒に行うことで、より理解が深まると考えた。プロジェクタなどで昨年から映像制作を積極的に行うようになったので、プロの話も聞

ネットワーク情報学部AO入試説明会



映画 Teach Inn 上映と監督によるトークショー

監督と、熱い、ディスカッション

き、ディスカッションの中から刺激を受けてもらいたい」と意図を話した。

6月23日には、卒業生の齋藤孝監督(平10法)が「ビルと動物園」(08年公開)を題材に講義を行った。映画とは考えて見るもの。この作品も「想像してほしい」という思いを込めて作った」と話し、「最も想像してほしいことは？」という質問に、「あなたは何を想像した？」と逆に問い返すなど、作品のテーマについて活発に意見が交わされた。「この作品は『いつでも変わる』というメッセージを発信している。それを感じ取って、待つのではなく、自ら目標を持って、頑張る」と語った。

30日には同じく卒業生の梨木友徳監督(平2商)が新人監督として臨んだ「NOEL」(03年公開)を題材にトークを展開。「殺さずの暗殺者」を描くことで、鑑賞後に生と死、特に死について考えてもらえれば」と話した。映画に関する質問のほか、TVドラマ「もやしもん」(フジテレビ系列で放映中)についての質問も多く寄せられた。最後に「鋭い指摘や感想をいただき、良い経験させてもらった。映画業界に興味を持つ学生が増えてくれればうれしいが映画監督に限らず、やりたいことを見つけたら、あきらめずに進んでほしい」と後輩にエールを送った。

▲「NOEL」の制作過程や意図を説明する梨木監督(右)

▽日時 7月24日(土) 10時30分
▽会場 生田キャンパス
※詳細は学部ホームページで。



▲「経済系3学部の違いについて」各学部の特色を説明

体験授業フェア

高校生・ご父母など1100人受講

模擬授業を中心としたイベント「体験授業フェア」が6月20日、生田キャンパスで開催された。最先端分野に関するものや身近な疑問に答えるものなど、幅広い分野の講義が行われたほか、初の試みとして商学部の神原理ゼミ、山内暁ゼミによる公開ゼミナールが開かれた。高校生やご父母など約1100人が興味あるテーマを受講しながら、大学への理解を深めた。



▶ 学生スタッフが親身な対応で大活躍



▲「iPod・iPhone 成功の秘密」飯田周作ネットワーク情報学部教授



▲「知られざる日本アニメを体感してみよう」米村みゆき文学部准教授



▲「WORLD ENGLISH」ロンコーブ、ピーターD. 文学部准教授



▲ グループワークを体験

「会計理論の考究」現た。3年次代表の篠恵さん展覧する」が研究テーマは「参加してくれた皆さんが「会計」について分た」という達成感を感じてほしいと、公開ゼミ担当の古屋佑樹さん、石井栄香さん(ともに3年次)を中心に協力して準備していただき、4年次代表の小林竜也さんは「会計」になじみのない高校生にどう説明すれば理解してもらえるか。教える、伝えることの難しさを感じた」と感想を話した。



▲ 工夫を凝らしたプレゼン

「消費社会における商案する「かつてこやプロ品の社会・文化的役割」シエクト」など、グループを研究する神原ゼミは、ごに取組んでいる「商品と消費のフィールド」究の途中経過をプレゼンテーションした。代表の和知麻美さんに、荒井商事と共同でス(4年次)は「ゼミの特パーの店舗改善案を考徴であるフィールドワーク、フィールドリサーチについて理解してもらおうと、実地調査の様子や得られたデータなど具体的な話を多く取り入れました。大勢の人の前でプレゼンテーションを行うことは、発表者にとってもプラスになったと思います」と話した。

公開ゼミナール

山内ゼミ 「会計」を分かりやすく講義 高校生交えてグループワーク

神原ゼミ フィールドワーク重視 し、プレゼンテーション

高大連携聴講生

将来の目標への第1歩として

高大連携協定校の高校を聞いた「写真。生が大学生と同じ講義を受講する高大連携聴講生。今年度は32科目に39人(生田16人、神田23人)が聴講している。



自身も生田東高3年生のときに聴講生だった土屋さんは、「入学前から知っているキャンパスで学ぶことは、同級生よりアドバンテージを感じていました」と入学時を振り返る。サポーターは、4月当初はキャンパス内の案内をしたり、毎回の講義後に、その日の感想を話したりする。土屋さんがいなかったら、講義を終えて、ただ帰るだけの単調なものになってしまったと思います」と大廣さん。

高大連携

6月から7月に高大連携協定校、付属高校との連携活動が行われ、荒木敏夫副学長の講演、模擬授業やキャンパス見学が行われた。

生田キャンパスで藤岡新治人間科学部教授の心理学101・102を履修している県立川崎高校2年の大廣亜沙美さんとサポーターの土屋勇人さん(ネットワーク4)に話したいという希望があるので、今のうちにとのようやましく感じます。話したくな学問なのを知っている自分自身をリセットおきたいと思い、履修をできること話すと土屋さん。決めました」と話す。「藤岡先生のお話は分かりやすいので、楽しく学んでいます。最初は不安もありましたが、土屋さんのサポートがあるので心強まらってよかったと実感します」と話している。

●都立狛江高校

6月23日、生田キャンパスで3年生80人が参加した「学校訪問」。今回は早期からの進路決定を促すことを主とし、吉田雅明経済学部教授の模擬授業「進化経済学・発信」を聴講した。

●専大松戸高校

6月5日、生田キャンパスで1年生502人が参加した。荒木敏夫副学長の講演「大学で学ぶこと」で専修大学への認識を深めたあと、付属高校出身者で組織する「E・Y・O・O」の学生会が引率してキャンパスを見学した。

●専大松戸フェスティバル

7月3日、生田キャンパスで2年生263人が参加。全学科が講座を開講して学科の理解を深めることにも「E・Y・O・O」の学生会企画による「専大知るまで帰れま10」と題したキャンパスライブの紹介が行われた。

